

# CNJ Speakers

Know(≠No)More Cancer 私たちは、もっと伝えたい



No.  
19

Special Talk ~

木下 ほうか × 金森 平和 × 大谷 貴子 対談

CNJ News / CNJ Report

海外がん医療 TOPICS

合言葉は「軽はずみ登録」!?

木下ほうかさんに聞く、

# 骨髓ドナーへの第一歩

ドナーになること、

ドナーから命を受け取ること

みなさんは「骨髓移植」と聞いて、何を思い浮かべますか？ 怖そう、痛そう、そして「遠い世界のこと」ではないでしょうか。実際に自分や身近な人が病気になるに限り、そう思ってしまうのは普通のことかもしれないかもしれません。しかし、もしも今、隣にいる家族や友達が骨髓移植をしなければ生きられないとしたら、あなたは何をしようか。

少しだけ、「骨髓ドナーって何だろう」と思って読んでみてください。実は、骨髓ドナーへの登録はその少しだけ、の感覚でできるもの。ドナー経験者の木下ほうかさん、医師の金森平和先生にお話をうかがいました。聞き手は、骨髓移植経験者の大谷貴子さんです。



木下 ほうか

俳優

骨髓ドナー経験者



金森 平和

神奈川県立がんセンター  
血液内科部長



大谷 貴子

移植経験者

日本骨髓バンク評議員

1964年生まれ。大阪府出身。  
1981年俳優デビュー。  
映画「かぞくいろー RAILWAYS わたしたちの出発ー」(2018年)、ドラマ「下町ロケット」、バラエティ「痛快TV スカッとジャパン」など、テレビ・映画に数多く出演し、活躍中。  
2017年にAC ジャパン骨髓バンク支援キャンペーン「僕が卒業しても、」に出演。

1982年弘前大学医学部卒。  
30年以上、白血病の化学療法や造血幹細胞移植に関わってきた。現在、骨髓バンク理事も務めている。  
キャンサーネットジャパンと神奈川県との協働事業「START TO BE」の総合監修も行う。

1986年、千葉大学大学院在学中に慢性骨髄性白血病を発症。1988年母親から骨髓移植を受ける。当初、ドナーが姉妹間で見つからず、ドナーが見つからない苦しきから骨髓バンク設立運動に参画。そののち、一貫して骨髓バンク運動に邁進し現在に至る。

# 造血幹細胞移植

## （骨髄移植）って何？

### ドナーになれる条件

大谷 貴子（以下、大谷）：「造血幹細胞移植」

いわゆる骨髄移植は、私たち血液がんの患者にとつてなくてはならない治療法のひとつです。

金森先生、骨髄移植とは何でしょうか。

金森 平和（以下、金森）：「移植」という言葉はよく知られていますが、みなさんが思い浮かべるのは、肝臓や腎臓などの臓器を移植する「固形臓器移植」だと思います。ところが血液のがんの場合、骨髄をすべて入れ替えることはできません。まずは放射線や抗がん剤を使って、白血病細胞などの腫瘍細胞を根絶し、ドナーの細胞が拒絶されないように免疫を抑えて、健康なドナーからの細胞を移植します。移植と言っても、静脈から輸血のような形で行います。新しい細胞は2〜4週程度で新たな血液を作り出し、置き換わります。血液がんなどの病気には非常に有効な治療法です。

大谷：こういった方が移植の対象となるのでしょうか。

金森：多くは、白血病を中心とした血液がんです。小児の場合は、血液がんのほか、免疫不

全症が移植の適用になります。近年では適用年齢が広がっていて、70歳くらいまで移植を受けられます。

大谷：より多くの患者さんを救えるチャンスが広がっていますね。そこで重要なのがドナーの存在です。「ドナー登録」するには条件があるのででしょうか。

金森：18歳〜54歳までの、身体的・精神的に健康な方です。通常の献血が可能な方であれば、身体的には問題ないかと思えます。でも一番の条件は「誰かの役に立ちたい」というモチベーションですね。実際、ドナーさんは意識が高く、気持ちのいい方が多いです。

### 「ドナー登録」しても

### 「ドナーになること」は強制ではない

大谷：今回は、実際にドナーになった経験のある木下ほうかさんにお越しいただいています。ドナーになる最初のステップ「ドナー登録」をしようと思っただけを教えてください。

木下ほうか（以下、木下）：これは好奇心ですね。献血もそうでした。ですので、強い使命感がスタートではないです。献血は習慣化していて、ちょっとした楽しみになっていたのですが、ある時から、骨髄バンクのポスターが目に入るようになりました。

大谷：骨髄ドナーという怖いイメージを持つ方も多いようです。

木下：私も恐怖心があつて、なかなか登録にまで至りませんでした。でもやってみたら、む

しろ献血よりも簡単。必要なのはたった2mlの採血ですから。「こんなに簡単にできるのか」と思いました。

登録をしたとしても、「ドナーになることは強制ではない」ことも知っておいてほしいですね。

「とりあえず登録から始めよう！」でもいいかもしれない。実際に提供依頼があつた時にあらためて考えるというくらいの気持ちでもいいかも？ドナーになるかどうか未定だけど、登録だけするっていう（笑）。

### 「もしもこのために、人生で1回くらい仕事を逃しても、誰かは生きることができる」

大谷：その後、木下さんは骨髄提供をされました。登録からどのくらい後でしたか。

木下：約5年後です。送られてきた封筒が大きくて、「何だろう」と思いました。なんかおっかなくって、数時間見て見ぬふり。そして封を開けてみたところで、今度は本当にドナーになるかどうかで悩みました。

でも、悩んでいる状態です。1つ1つ見つかったんです。それが1つ目の検査。「そこまでするから、本当に協力するかどうか決めればよい」と知りました。

大谷：骨髄提供には、通常、3泊4日の入院が必要です。仕事を休まなければならないなど、



負担に感じてしまう方もいるようです。

**木下**.. 勤め先の理解が必要であると同時に、骨髄バンクもドナー側に優しい日程や条件を取り入れてもらえると、よりやりやすくなるかもしれません。私は仕事柄、自由に時間を空けることができませんでしたし、「もしもこのために、人生で1回くらい仕事を逃しても、誰かは生きることが出来る」という思いもありました。

**大谷**.. 移植を受けたひとりとして、とてもうれしい言葉です。

ドナーになるには、ご本人の意思だけでなく、配偶者などの許可も必要です。家族の反対にあって辞退してしまう人もいるのですが。

**木下**.. 軽く反対はありました。「そんなん、やめとき」みたいな。でも私も大人ですし、自分で決めたので、特に問題はありませんでした。

**大谷**.. 不安のひとつとして、骨髄の採取には全身麻酔が必要だという点があるかと思えます。金森先生、その安全性はいかがでしょうか。

**金森**.. 病気治療のためでも、骨髄提供のためでも、麻酔そのもののリスクは変わりません。ただ、もともと体が弱っている病気の方への麻酔に比べたら、総合的なリスクは低くなります。全身麻酔を使わない末梢血幹細胞提供という方法もありますが、全身麻酔で痛みなどがわからない間に骨髄提供したいという方もいますね。

**木下**.. 私は昔、全身麻酔をしたことがあったのですが、それからだいぶ年数が経っていたから、かなり信頼感がありました。目覚めた後は全然違和感がなくて、「ほんとに採取したの？」というくらい。

## 移 植 を 受 け た 方 か ら の 手 紙

**大谷**.. 骨髄提供後、うれしい出来事があったそうですね。

**木下**.. 私の骨髄を移植された方とその奥様から、お手紙が来ました。これはうれしかったですね。最近では慣れてきました。以前は読むたびにわんわん泣いていた。こみあげてくるんです。「よかった!」というのと、「私もいいことができた」というダブルの喜びでした。

**大谷**.. 木下さんは「僕が骨髄提供した理由」という本を出版されるそうですね。



**木下**.. 骨髄提供者として、これまで語ったことのないことを書いてみました。わざとらしい感じがして最初は断っていたのですが、いかにみんな骨髄移植のことを知らないか、無関心なのかが分かってきて、「じゃあやってみようか」と。

しないのに、軽はずみに登録(笑)。  
**大谷**.. 最近、キャンサーネットジャパンではSTART TO BE (STB) という、骨髄移植についてのサイトが開設されました。サポーターを募集中で、サポーター登録はどなたでもできますので、読者のみなさん、ぜひ覗いてみてください。

## ま ず は サ ポ ー タ ー に な っ て み る ! ?

「軽はずみに登録」  
でもいい

**大谷**.. 木下さんには、ACジャパンのCMに登場していただき反響が出ています。骨髄提供ができるのは55歳までなので、若い人たちにバトンを渡していきたいですね。

**木下**.. 若いドナーさんが増えるといいですね。再三言っていますが、「登録」提供ではなくて、提供のお知らせが来たら、もう一度ゼロから考えれば良いと思う。ペーパードライバミみたいな感じ。運転しないのに免許。移植



文/木口マリ  
写真/山本華漸

ドナー登録・骨髄提供について多くの方へ呼びかけたく  
自著『僕が骨髄提供をした理由。言うほどたいしたことなかったで〜!』  
(辰巳出版)  
2018年11月26日発売。



みんな応援のために SNS でご協力いただきました！

応援してください！  
造血幹細胞移植総合支援特設サイト「START TO BE」

2018年4月より神奈川県との協働事業としてスタートした、白血病や悪性リンパ腫など主に血液がんの治療として行われる造血幹細胞移植（骨髄移植、臍帯血移植など）の総合的支援プログラム「START TO BE」のウェブサイトは、患者向け・ドナー向け・支援者向けの記事やインタビュー動画、献血併行型ドナー登録会などのイベント情報も含め、120を超えるコンテンツを掲載、今後更に内容を充実していく予定です。SNS（Facebook、Twitter、Instagram）でも積極的に情報を発信し、

今号の巻頭インタビューへ協力くださった神奈川県立がんセンターの金森平和先生、俳優で骨髄バンクのドナーとして骨髄提供経験者の木下ほうかさん、日本骨髄バンク評議員で全国骨髄バンク推進連絡協議会顧問の大谷貴子さんの対談にもある通り、健常なドナーを要する造血幹細胞移植で一人でも多くの患者さんの命が救われるようにと願いつつ、今後も着実に活動を続けていきます。来春には、神奈川県内の中学・高校、看護学校での講演会、秋には造血幹細胞移植治療をテーマにした血液がんのフォーラムも企画をしています。



活動を応援してくれるサポーター登録も100名を超えることができました。

啓発活動はWEB以外にも、厚木市にあるソニーテクノロジーセンターの協力で、12月に社内の社員食堂に三角POPを120個設置、1月には毎年の献血に合わせてドナー登録会も併行して実施される予定です。



現在、日本全国にドナーを待っている患者さんは四千人以上います。一日でも早くドナーが見つかり移植を受けられるよう心から願って活動を続けています。是非、一緒に応援してください。是非、「サポーター登録」をお願いします！

SNS UP!



<https://www.start2be.org/>



サポーター登録者には、300名に発足記念ピンバッジを送付。



世界中の患者さんに、より良い生活を。

セルジーン社の目指すもの。それは、世界中の患者さんにより良い生活を送っていただくこと。私たちは、血液・がん、炎症・免疫性疾患領域におけるアンメット・メディカルニーズ（対処されていない医療ニーズ）に応える治療薬を日本の患者さんにもお届けできるように臨床開発を積極的に進めています。そして、このゆるぎない使命を果たすことを目標に果敢な挑戦を続けていきます。



セルジーン株式会社

〒100-7010 東京都千代田区丸の内二丁目7番2号 JPタワー  
<http://www.celgene.co.jp/>

●セルジーン株式会社は、グローバルなバイオ医薬品企業であるセルジーン社（本社：米国ニュージャージー州）の日本法人として、2005年12月に設立しました。

# 「急性リンパ性白血病」の

特設サイトと冊子ができました！

小児がんの中で最も多い急性リンパ性白血病、成人では白血病全体の約20%とあまり多くはありませんが、成人での長期生存率は15%〜35%と非常に予後の悪い血液がんです。急性リンパ性白血病は、染色体異常の有無や病型分類などのリスクファクターによって治療法が変わります。

今回、インターネット動画で学ぶ特設サイト「もっと知ってほしい急性リンパ性白血病のこと」を、虎の門病院 血液内科部長 谷口修一先生に監修頂き制作しました。

急性リンパ性白血病の概要から、検査法、標準的治療法、副作用等について、患者や家族、患者支援に携わる方々に知っていただきたい情報を、5名の専門医が解説しています。

また、慶應義塾大学 医学部 血液内科 教授の岡本真一郎先生監修のもと、冊子「もっと知ってほしい急性リンパ性白血病のこと」を制作しました。

治療情報のほかに、急性リンパ性白血病の患者さんの治療体験を「Patients Voice (患者の声)」として掲載しています。疾患が同じ患者さんの生の声は、とても参考になると好評です。「プロポーズをされた3週間後に診断されました」「ALL」によって生活の改善、人生を見直すきっかけに

なった」「同病の人の光になりたくて院内患者会を立ち上げて活動しています」など、決して病気をマイナスにとらえずに向き合う様子は病気の種類を問わず励まされるものです。



動画は各10〜20分程度。いずれも無料で視聴できます。



<http://www.cancernet.jp/hematologiccancer/all/>



インターネットでご覧いただけます。ダウンロードも無料です。

<https://www.cancernet.jp/all>

主治医の説明をより深く理解するツールとして、大切な誰かを支えたいという方の情報源として、初めは難しいと感じるかもしれませんが、繰り返し動画を観たり、冊子を読んだりすることで少しずつ分かるようになってくるものです。病気の診断直後は、誰もがその病気を知ることから始まります。解説動画は順次公開していきます。是非、お役立てください。

## あなたの愛おしいが 世界の愛おしいを守ります

もっと多くの人たちが快適に、健康的に過ごせるように私たち(MA-T)ができることそれは、3つの安心です。



エーツーケア 検索

今後も新規冊子の制作、  
改訂が続きます！

2月 改訂 がんの免疫療法

「もっと知ってほしい」

がんの免疫療法のこと

昨年京都大学の本庶佑先生がノーベル生理学医学賞受賞したことで注目を集めているがん免疫療法。私たちが初版を出した2016年から適応疾患も増えました。また承認された当初は単剤で用いられていましたが、現在では免疫チェックポイント阻害薬同士の併用療法や、抗がん剤、分子標的薬との併用療法の開発も進んでいます。2019年版では最新情報をお届けできるように制作しています。

5月 新規冊子 悪性脳腫瘍

「もっと知ってほしい」

悪性脳腫瘍のこと

悪性脳腫瘍（主に神経膠腫・中枢神経系原発悪性リンパ腫・転移性脳腫瘍）と診断を受けたあらゆる状況（主に初発）にある患者さんが、知っておくべき病気に関する情報、治療に関する情報、及び療養生活を送るうえで情報をまとめています。脳腫瘍と言っても良性的の腫瘍を含めると種類が非常に多く、なかなか制作できずにいました。今回は罹患患者数の多い疾患に絞ってまとめています。発行までもう少しお待ちください。

3月 改訂 多発性骨髄腫

「もっと知ってほしい」

多発性骨髄腫のこと

2015年の初版制作時以降も続々と新規薬剤が登場しています。9種類そろった新規薬剤をどのように使い分けるのか、どのような作用があり、副作用はどのようなのか。新しければ新しいほど良い薬なのかなど。多くの患者さんが悩まれています。今回は新規薬剤の内容を中心に最新情報へと改訂します。

3月 新規冊子 血液ケアギバー向け

「もっと知ってほしい」

大切な人ががんになったとき  
血液のがん

今回で3冊目となるケアギバー向け冊子の対象は血液がん患者さんを支える方々です。血液がん治療は、固形がんとは異なり治療期間も長くなる傾向があり、同種移植となると家族の誰かが提供者になる可能性もある、特殊な状況になります。患者さんを支える家族も大切にしたいと、心を込めて制作中です。

3月 改訂 大腸がん

「もっと知ってほしい」

大腸がんのこと

2019年1月の大腸癌治療ガイドライン改訂を受け、最新情報に改訂します。

1月 新規冊子 前立腺がんの放射線療法

「もっと知ってほしい」

前立腺がんの放射線療法のこと

今回、浜松医科大学放射線腫瘍学講座教授中村和正先生に監修いただき、C/NJが制作しました。前立腺がんの治療の一つに放射線療法がありますが、その種類や実施の選択パターンはとてもさまざまです。この冊子が患者さんと医療スタッフとの対話のきっかけとなり、患者さんの生活スタイルや価値観も考慮した治療が選択できることを願いバイエル薬品(株) 協力のもと制作しました。



冊子は、全国のがん診療連携拠点病院のがん相談支援センターへ発送しております。病院で見かけた方は、是非ご覧下さい。

WEBで無料ダウンロードできます。  
<https://www.cancernet.jp/category/publish>

**BAYER**

早く治ってほしいという  
願いを、チカラに。

Science for a better life

<http://byl.bayer.co.jp/>      パイエル薬品株式会社

医療従事者が  
知っておきたい **AYA世代**  
がんサポートガイド

好評  
発売中  
!!

平成27-29年度厚生労働科学研究費補助金  
(がん対策推進総合研究事業)  
「総合的な思春期・若年成人(AYA)世代の  
がん対策のあり方に関する研究」班 編

**AYA患者と向き合う前に読んでおきたい一冊!**  
推奨される対応やモデルケース、活用できるリソースなども満載

B5判 132頁 定価(本体2,800円+税) ISBN978-4-307-00483-1

**金原出版** [www.kanehara-shuppan.co.jp](http://www.kanehara-shuppan.co.jp)

## ちややまちキヤンサーフォーラム2018 開催報告

2015年よりMBS 毎日放送と開催しているOneDayセミナーも今年で第4回を迎えました。この時期にしては少し暑いぐらいの気温となった10月27日(土) 毎日放送本社1階にて約1000名の方にご来場いただき盛況のうちに終えました。セミナー会場のちやぶらステージでは最近話題になっている「がんゲノム医療」や罹



乳がんのトークセッション

患者数が増え続けている「乳がん」について講演いただきました。中でも乳がんサバイバーでもある歌手の麻倉未稀さんを交えてのトークセッションは麻倉さんが乳がんと診断されてから、公表するまでのエピソードなどインパクトの強い内容となりました。セミナー参加者からは「最新の治療について知識が得られた」「医師と乳がん患者の声を聞けて勉強になり勇気・元気をいただけた」「支える側の家族の気持ちも分かった」などの感想が聞かれました。

そしてAVルームでは、2018年4月に12種の手術で保険適応になったロボット支援下手術「ダヴィンチ手術」について、大阪赤十字病院の野村明成先生から詳細なお話をいただきました。下部直腸がんの手術において、腫瘍が大きかったり、肛門に近い場所など、これまでの腹腔鏡手術で可動域制限がある場合にも、ダヴィンチ手術が適していると話されました。もう一つの講演は、高齢化する日本において気がかりな「高齢者に抗がん剤は効果がないのか？」がテーマでした。イベント会場のちややまちプラザでは企業・患者団体を合わせ20団体より出展いただきました。今年目は新しい「がん、よるず」相談コーナーや恒例の株式会社ポーラ協力によるハンドトリートメントなどもあり、情報と癒しを求めて沢

山の方にお立ち寄りいただきました。サブステージでは医療者とサバイバーによる本音トークに人垣が出来るほどでした。

そしてクロージングセッションではサブライズで麻倉未稀さんが「HERO」を熱唱してくれました。麻倉さんの迫力ある歌声に、会場の参加者それぞれの思いが加わり、涙ぐむ姿を見かけたのがとても印象的でした。またMBS本社ロビーの特設ステージではトークセッション「本音トーク！わかりあえない医療者と患者よりよい関係を築くために」を開催、セッションの内容を紹介する特別番組が12月30日19時からMBSラジオで放送されました。

「知る・学ぶ・集う」わかる！がん情報の発信の場として開催して参りましたが「来年も是非開催してほしい！」との声をいただき、回数を重ねる度に皆さんに活用される、必要な場所になっている事を感じたいイベントでもありました。来場者の皆様、開催趣旨に賛同いただきご協力くださったご登壇者の皆様、早朝より準備してくださいましたボランティアスタッフ、ご支援くださった全ての方に御礼申し上げます。また来年も開催出来る様スタッフ一同、新たな目標に向かって進んで参ります。



ダカラソクリエイトによる「本音トーク!! わかりあえない?!」医療者と患者」



がんゲノム医療の総論について熱く講演する 近畿大学の中川和彦先生



患者会のブースなど多くの来場者で賑わいました

当日のセミナー動画も公開しています→ <http://www.cancernet.jp/mbscnj/>

## Thanks for Supporting JCF

開催日程：2018年8月11日（土）、12日（日）の2日間  
 開催会場：国立がん研究センター 築地キャンパス 新研究棟  
 参加者数：3,058名  
 プログラム数：62（ラベンダーリング、レモネードスタンド含む）  
 無償でご登壇頂いた講師陣：総勢105名  
 ボランティアスタッフ：150名  
 ※当日のセミナー動画・開催報告書は、サイトで公開中！  
<https://www.japancancerforum.jp/>

2018年度は、昨年の日本橋から国立がん研究センター築地キャンパス新研究棟に場所を移し開催いたしました。疾患別の最新医療セミナーだけではなく、がんサイバーの話、がん患者団体の展示ブースなど、がん患者や家族が楽しめるプログラムを用意、皆様のサポートを得て盛況のうちに終えることができました。

JCF 2018  
 盛況のうちに無事終了

2019年 1日目 2日目  
 8月 17日 ± 18日 日



国立がん研究センター  
 築地キャンパス 新研究棟  
 〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1  
<https://www.japancancerforum.jp>

みんなで知ろう！ がんのこと

2019年  
 開催決定！



ジャパンキャンサーフォーラム

2019年度 ジャパンキャンサーフォーラム協賛募集中！

セッション共催

寄付

バナー広告

寄付返礼品特別協賛

企業展示

プログラム冊子広告

資料・サンプル配布

お問い合わせ先：認定NPO法人がんネットワークジャパン「JCF2019」担当宛  
<https://www.japancancerforum.jp/contact>

第9回  
 リリー・オンコロジー・オン・キャンパス  
 がんと生きる、わたしの物語。  
 絵画×写真×絵手紙コンテスト  
 コンテスト作品募集  
 詳細はウェブサイトをご覧ください。  
[www.locj.jp](http://www.locj.jp)

Lilly  
 日本イーライリリー株式会社

## 胃がん市民公開講座 2018

「参加して良かった！」の声に  
励まされて無事終了しました

もっと知ってほしい胃がんのこと

2018は、6月30日(土)新潟市日報ホール、9月29日(土)富山市 富山国際会議場多目的ホール、11月10日(土)広島市YMCA国際文化ホールの3地区で開催しました。司会と講師の先生含めて合計19名の皆様へご協力いただき、どの地区でも盛況のうちに終了することができました。来場者は3地区合計で506名でした。今年最新の胃がんの治療情報に加えて、ゲノム医療、がん相談支援、栄養などのテーマについても講演いただきました。

アンケートは、合計194名に協力いただき、大半の方より「参加して良かった」

とお声が寄せられました。

広島の場合は、胃がんの治療経験がある広島東洋カープの赤松真人選手へのインタビュービデオレターを放映しました。参加者からは「勇気を与えてもらって元気がなった」「生きていることへの感謝」「病気で気づくこともある」「常に心のどこかに赤松選手の言葉をとてもっておきたい」などの感想をいただきました。



※もっと知ってほしい胃がんのこと 2018 in 富山



※もっと知ってほしい胃がんのこと 2018 in 広島



※もっと知ってほしい胃がんのこと 2018 in 新潟



※過去のセミナー動画・赤松選手のビデオレターも公開中  
→ <https://www.cancernet.jp/gastriccancer/>

## 「肺がん疾患治療啓発キャンペーン」 もっと知ってほしい肺がんのこと

～進化する薬物療法 2018～

これまで、日本イーライリリー株式会社と全国で開催してきた肺がんセミナーですが、2018年の秋は、肺がんの薬物療法にテーマを絞り、10月27日は兵庫医科大学との共催、11月4日は徳島大学呼吸器・膠原病内科との共催で開催しました。

肺がんの薬物療法はその組織学的分類により治療が異なります。まず自身の肺がんのタイプを知ること、次にステージを知り、それに合った最適な治療を選択することが大切です。肺がんの化学療法と支持療法、分子標的薬治療、そして京都大学の本庶佑先生がノーベル生理学・医学賞を受賞したことで、さらに注目を集めた免疫療法について、その詳しいメカニズムから、適応や副作用までお話いただきました。今回のト

ピックスとして、ステージⅢの局所進行期の非小細胞肺がんでは、化学放射線療法の後に、維持療法として、免疫療法を1年間続けたほうが、何もしない人と比べて、治療成績がいいというお話がありました。

また免疫療法にはこれまでの抗がん剤や分子標的薬治療にはなかった免疫関連有害事象と言われる、肺障害、胃腸障害、内分沁障害、皮膚障害、神経筋障害などの副作用が出ることもあるので、注意しなければならぬというお話もありました。

そして、世界中で肺がんに対する様々な研究が進められ、新たな治療法が次々と開発されていること、まもなく、免疫療法と化学療法の併用などの治療も出てきて、近い将来標準治療が変わる可能性もあるとのお話をいただきました。



肺がんに関する新着情報やセミナービデオ、疾患に関する冊子などを掲載しています。

もっと知ってほしい肺がんのこと  
2018 in 兵庫  
～進化する肺がんの薬物療法～



もっと知ってほしい肺がんのこと 2018 in 徳島 ～進化する肺がんの薬物療法～



前立腺がんセミナー 2018 in 岡山  
活動報告をWEBで公開しています。  
<https://www.cancernet.jp/zenritsusen180902>



前立腺がんセミナー 2018 in 札幌 活動報告を  
WEBで公開しています。  
<https://www.cancernet.jp/zenritsusen180929>

【前立腺がんセミナー 岡山と札幌で開催】

もっと話そう前立腺がん転移のこと  
くらしを守る早期対応のすすめ

2018年後半は岡山と札幌で前立腺がんの転移について知り、早期診断・治療によってQOLを維持するを目的として腺友倶楽部、バイエル薬品との共催で開催しました。参加者は8名ずつのグループに分かれて着席し、講演前、講演中、講演後に座長や講師からなげかけられた質問にアンサーパッドを使って回答する形で進行了しました。

講演前に「前立腺がんが治療で完治しなかった場合、最終的にどのくらいの割合の患者さんで骨への転移がおこると思いますか」と尋ねた質問に、約半数以上の方が50%以下と回答していました。実際には去勢抵抗性前立腺がんおよそ80%以上の方が

骨転移します。岡山大学泌尿器科の荒木元朗先生は、手足のしびれや麻痺は脊髄の圧迫でおきることから、症状が出たらすぐに主治医に伝えること、発症から48時間以内に手術しないと回復が難しいと注意を促しました。また、実際に骨転移を経験されている患者の川崎陽二さんは、「小さな症状でも主治医に訴えること。生活の質を中心にした治療を意識しましょう」と話されました。

札幌会場では、座長の北海道がんセンター副院長の永森聡先生より、「前立腺がんというのは主に骨に転移します。骨というの体を支えています、肺とか肝臓といった臓器のように命そのものを支えている部位

ではありません。骨の転移はQOLを下げてしまうことはあっても、放射線をあて、薬を飲むことである程度は治療していきます。あきらめず、川崎さんのように、がんと共存していく気持ちで前向きに治療していただきたいと思えます。」と述べられました。

私たちができる全てを、  
待っている人のために



アッヴィ合同会社  
<http://www.abbvie.co.jp/>

abbvie

People. Passion.  
Possibilities.®

2019年度  
第9回 OVER CANCER TOGETHER  
5月開催予定!



OVER CANCER TOGETHER (OCT) がんサバイバーの声を聴こう! では、今年も参加者を募集します(募集開始は2月1日)。このセミナーは毎年30名の参加者と共に、がんサバイバーが自らのがん体験を通して感じた様々な気持ちを社会に発信する力を身につけることを目的としています。様々なステークホルダーの講義とワーク

ショップを行い、最後に自身の経験を一つの文章にまとめます。このセミナーは、遠方にお住いの方にもご参加いただけるよう、交通費を一部助成する制度があります。毎回、全国各地で活躍しているがんサバイバーの先輩方が懇親会に参加してくれるので、さまざまな方とつながることが出来るのも楽しみの一つです。身近なところから、私たちを取り巻く社会まで、ご自身の経験を社会に還元してみませんか? 全国から参加者を募集します。



ご興味のある方は、ぜひエントリーしてみてください!  
告知は2月1日よりCNJのHP上で発表します。  
<https://www.cancernet.jp/>  
OCT活動の詳細は→  
<http://www.octjapan.jp>

BEC 15th  
乳がん体験者コーディネーター養成講座第15期  
5月13日(月) 受付開始決定

乳がん体験者コーディネーター養成講座 総監修

中村 清吾 先生  
昭和大学医学部 乳癌外科 教授  
昭和大学病院 プレストセンター長

早割特典は、7月末まで!

パソコンの他、スマートフォン・タブレットからも視聴できますので、ちょっとしたスキマ時間に学習出来ます!

詳しくは↓  
<https://www.cancernet.jp/training/bec>

**OCT (Over Cancer Together) 修了生の活動**  
名古屋在住の山本翔太さんは、自動車部品製造業で働く腺様嚢胞がんサバイバーです。第5回OCTに参加し、自身の経験をまとめました。この原稿をもとに、自身の部署で講演、それが上司の目に留まり社内全体で発表する機会につながりました。そして現在、社外での講演活動も始めています。自身の抱える「がんと就労」についての経験談を通して、がんになった人とがんになつていない人の壁を取り払い、お互いに働きやすい環境が出来ることを目標に活動しています。



写真提供: 中日新聞

**BEC (乳がん体験者コーディネーター) 認定者の活動**  
BEC 13期乳がん経験者井上裕香子さんは、山口県初のBEC認定者です。認定後にロクス・エスエスの事務局メンバーとなり、日本乳癌学会学術総会にも参加、3月に発足するPink Ring 西日本branchの代表を務めることになっています。また、昨年は山口新聞に経験談を寄稿、10月には山口県庁の安全衛生管理担当の方を対象とした研修会で、がん経験を発表。井上さんは、AYA世代の乳がん患者として、高校生へのがん教育にも挑戦しています。これからの活躍が楽しみです!



BEC 認定者・OCT 修了生の活動報告



ブルーリボンキャラバン〜  
もっと知ってほしい大腸がんのこと 2019

倉敷 | 2月2日(土)  
川崎医科大学附属病院 市民公開講座

長崎 | 2月9日(土)  
長崎みなとメディカルセンター 市民公開講座

東京 | 3月16日(土)  
東京医科歯科大学 鈴木章夫記念講堂



詳しくは→ <http://www.cancernet.jp/brc/>

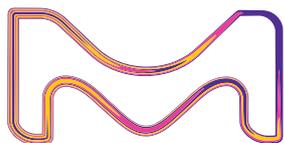
ブルーリボンキャンペーン  
2018年後半は福井・岐阜・大阪開催  
2019年も各地を回ります

大腸がんの市民公開講座「ブルーリボンキャラバン」は、2018年7月福井県済生会病院と共催、10月岐阜大学病院と共催、11月大阪国際がんセンターと共催し、2011年から通算すると39回の開催となりました。各地域のブルーリボンキャンペーンアンバサダーの先生とともに企画し、いずれも多くの方にご来場いただき盛況のうちに終了しました。また、10月には、ブルーリボンキャンペーンアンバサダーサ

ミット2018を開催し、アンバサダーの先生方と啓発活動の情報共有を行いました。2019年は、2月倉敷、長崎、3月は東京開催を予定しています。年間の新たな罹患患者数予測が約15万人といわれる大腸がん(※)の正しい情報、生活周りの情報を今後も医療者と連携し発信してまいります。お近くで開催の折は、是非、ご来場ください。(※国立がん研究センター がん情報サービスより)

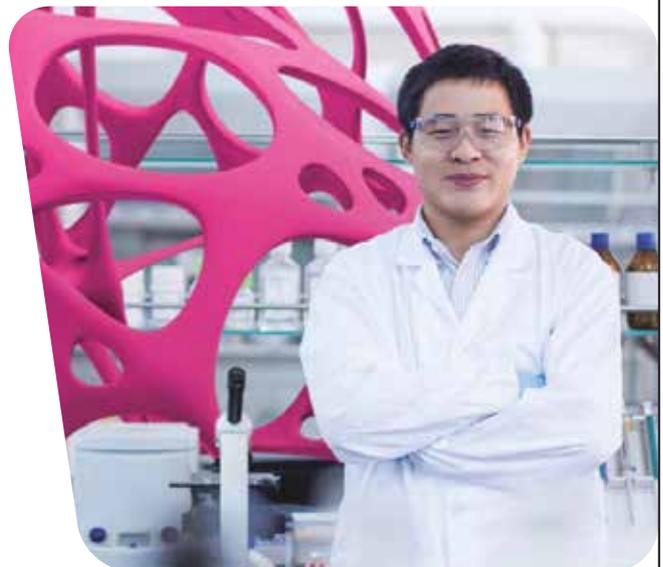
革新的な医薬品の  
開発を通じて  
医療のアンメットニーズに  
応えていく

私たちは、世界で最も歴史の古い医薬品・化学品企業であるメルクのバイオフーマ部門です。  
日本では「がん」と「不妊」治療を重点領域としています。  
科学をリードし、患者さんのより良い生活を実現していくことが私たちの使命です。



メルクセローノ株式会社

〒153-8926 東京都目黒区下目黒1-8-1アルコタワー 4F  
[www.merckgroup.com/jp-ja](http://www.merckgroup.com/jp-ja)



MERCK

詳細・動画・申込み

がん情報サイト「オンコロ」特設ページの申込みフォームをご利用ください。

[https://oncolo.jp/rarecancer\\_mte2019/](https://oncolo.jp/rarecancer_mte2019/)

オンコロ 検索

参加費無料

## 2019年テーマ・各回講師

(テーマや講師は変更になる場合があります。最新情報はオンコロ Web サイトでご確認ください。)

1月	18日	第36回 肉腫(サルコーマ)～後腹膜の肉腫～ 込山 元清 先生 (希少がんセンター/中央病院 泌尿器・後腹膜腫瘍科) 前嶋 愛子 先生 (希少がんセンター/中央病院 泌尿器・後腹膜腫瘍科)
2月	1日	第37回 希少がんに対する粒子線治療～陽子線治療・重粒子線治療～ 希少がんセンター×放射線医学総合研究所 秋元 哲夫 先生 (希少がんセンター/東病院副院長 放射線治療科長) 今井 礼子 先生 (放射線医学総合研究所病棟 骨軟部腫瘍科長)
	15日	第38回 悪性黒色腫(メラノーマ)～診断・治療～ 山崎 直也 先生 (希少がんセンター/中央病院 皮膚腫瘍科長)
3月	1日	第39回 神経内分泌腫瘍～総論～ 脇岡 範 先生 (希少がんセンター/中央病院 肝臓腫瘍科)
	15日	第40回 頭頸部の希少がん～総論～ 吉本 世一 先生 (希少がんセンター/中央病院 頭頸部外科長) 本間 義崇 先生 (希少がんセンター/中央病院 頭頸部内科/消化管内科)
4月	5日	第41回 GIST(消化管間質腫瘍) 西田 俊朗 先生 (中央病院 病院長) 内藤 陽一 先生 (希少がんセンター/東病院 先端医療科/乳腺・腫瘍内科)
	19日	第42回 原発性マクログロブリン血症 伊豆津 宏二 先生 (希少がんセンター/中央病院 血液腫瘍科長)

5月	17日	第43回 希少がん診療の取り組み①～希少がんの定義・希少がんネットワーク～ 西田 俊朗 先生 (中央病院 病院長) 川井 章 先生 (希少がんセンター長/中央病院 骨軟部腫瘍・リハビリテーション科長) 東 尚弘 先生 (希少がんセンター/がん対策情報センター がん登録センター長)
6月	7日	第44回 悪性胸膜中皮腫 後藤 慎 先生 (希少がんセンター/中央病院 呼吸器内科) 渡辺 俊一 先生 (中央病院 呼吸器外科長)
	21日	第45回 網膜芽細胞腫 鈴木 茂伸 先生 (希少がんセンター/中央病院 眼腫瘍科長) 吉田 輝彦 先生 (中央病院 遺伝子診療部門長)
7月	5日	第46回 希少がん診療の取り組み②～病理診断～ 希少がんセンター×九州大学 西田 俊朗 先生 (中央病院 病院長) 川井 章 先生 (希少がんセンター長/中央病院 骨軟部腫瘍・リハビリテーション科長) 小田 義直 先生 (九州大学大学院 医学研究院 形態機能病理学分野教授) 吉田 朗彦 先生 (希少がんセンター/中央病院 病理科)
	26日	第47回 希少がんとゲノム医療 山本 昇 先生 (希少がんセンター/中央病院 先端医療科長/呼吸器内科)

共催：国立がん研究センター希少がんセンター / 認定NPO法人がんネットワークジャパン  
がん情報サイト「オンコロ」

後援：運営協力：株式会社クリニカル・トライアル / 株式会社クロエ

共催：第91回日本胃癌学会学術集会 / NPO 法人がんネットワークジャパン

第91回日本胃癌学会市民公開講座

みんなで考えよう、  
胃がんのサバイバーシップ

スペシャルゲスト  
さとう 宗幸さん

参加費  
無料

3月2日(土) 会場：プラサ ヴェルデ  
コンベンションホールB  
(開場 12:30) 13:00-16:30 〒410-0801 静岡県沼津市大手町1丁目1-4

詳しくは→<https://www.cancernet.jp/25875>

男性乳がんの会  
メンズ BC

男性乳がん患者の  
集まる場所がない!

悩みを共有したい!

講師：昭和大病院 乳癌外科准教授

沢田 晃暢先生

2月16日(土)

参加費 500円

(開場 13:30) 14:00-16:30 昭和大病院 入院棟17階A会議室  
〒142-8666 東京都品川区旗の台1-5-8

詳しくは→<https://www.cancernet.jp/190216>

## レモネードスタンドジャパン～盛況のうちに開催終了～!

2018年12月7日・8日開催  
東京エクセレンス～レモネードスタンド～

今回初めて東京エクセレンスのご協力により、  
試合会場でのレモネードスタンドを開催しました。  
アットホームな雰囲気の中、関心を持って  
募金も協力していただきました。

2018年8月5日開催  
神奈川県立こども医療センター 夏休み公開講座

もっと知ってほしい小児がんのこと  
～レモネードスタンド体験～

今年も地域の小中学校生を対象に開催しました。  
協賛：メディエータ



社会貢献するバスケットボールチーム  
「東京エクセレンス」の試合は↓  
3月23日(土) 24日(日)  
詳しくは  
<https://tokyo-excellence.jp/>



## 高齢の骨髄移植患者の QOL 改善に向けた 新たな大規模研究

米ワシントン州シアトルのフレッド・ハッチンソンがん研究センターが、米国国立がん研究所（NCI）から5年間で350万ドル（約4億円）の助成を受け、複数の疾患を抱える高齢の骨髄移植患者600人を対象に、全米で多施設臨床試験を開始すると発表しました。

造血幹細胞移植により病気の治癒が見込めても、移植治療には様々なリスクが伴うため、がん以外の疾患を抱える高齢患者の場合は、移植後の合併症が原因で死亡したり、QOL（生活の質）が大幅に低下してしまったりすることが少なくありません。慢性疾患など複数の健康障害を抱える高齢患者は、一般的にがん治療の臨床試験の対象から外れることが多いのですが、実際には血液のがん患者の多数がこのような高齢者です。

臨床現場で多くの患者に有効な治療レジメンを開発するには、こうした高齢患者をはずして考えるわけにはいきません。この新たな第2/3相試験は、複数疾患を抱える患者や高齢患者のみを対象に実施するという初めての

試みで、非常に興味深い研究です。

対象者は移植を受ける予定のある、65歳以上の人、複数の健康障害を抱える人、または歩行速度の低下（活動の低下）がみられる人。移植の前後に①身体的、精神的症状の緩和に焦点を当てたサポート、②移植とは関係のない健康問題に焦点を当てたケア、③その両方、④標準ケアを実施して、どの介入策が移植治療3カ月後のQOLを向上させるかを調べます。また患者の生存に対する介入策の影響や、長期的なQOLと機能維持についても調査します。

この試験を率いるムハマド・ソロール医師は、「若い患者、健康状態の良い患者は除外し、これまで研究対象から外れていた患者群にはじめて焦点を当てて行う研究です。この試験は、すぐに患者ケアの向上に使える結果を出せるはずです」と述べています。

情報提供／海外がん医療情報リファレンス

## ご挨拶

キャンサーネットジャパン理事：中井 美穂

この度、CNJの理事に加わりました、アナウンサーの中井美穂です。小西敏郎先生からお声をかけていただいてCNJの第1回の「大腸がん啓発活動 ブルーリボンキャラバン」に司会として参加したのが2011年の3月のことでした。開催の直前に東日本大地震が起り開催は中止、後日近くのサテライトスタジオから配信という形で情報をお届けしたことは忘れられない経験です。

私自身は2002年に腹膜炎となり、その処置として一年間の人工肛門の生活を経験したことで医療の分野に興味をもちました。最初はその事を公表するつもりはなかったのですが、CNJの活動を続けるうちにオストメイト（人工肛門や人工膀胱を造設している人）であった経験はネガティブなことだけではなくて多くの気づきを私に与えてくれたこと、アナウンサーという立場だからこそとできることがあるということスタッフや集まってきた方々から、教えて頂き一昨年「徹子の部屋」に出

演した時に思い切ってお話しさせていただきました。これもCNJでの活動を続けてきたからこそできたことです。同じ経験をしなくてもそれをどう受け止めてこれからの人生でどう活かしていくのかは自分次第。熱意がある方々との出会いで私の人生はより豊かになっていると実感しています。感謝でいっぱいです。多くの出会いがあり、最近は「グリーフケア」にも興味を持ちその活動をもっと知りたい、広めたいと考えています。そのためにも皆様からのお声をもっともっと聞かせていただきたいです。

未熟者ではありますが、精一杯努めてまいりますので、これからもどうぞ宜しくお願い致します！





# 命を明日につなぐ。希望は世界中にある。

課題と国境を越えて、人々の明日をひらく製薬会社、ヤンセンファーマ。

世界のすべてが、私たちの研究室。  
病と懸命に闘う患者さんのために、  
最高の科学と、独創的な知性、  
世界中の力を合わせ、新しい可能性を切り拓く。

すべては、私たちの解決策を待つ、ひとつの命のために。  
複雑な課題にこそ挑んでいく。  
新しい薬を創るだけでなく、それを最適な方法で提供する。

革新的な薬や治療法を、届ける。  
世界中に、私たちを待つ人がいる限り。

誰もが健やかに、いきいきと暮らす社会。  
そんな「当たり前」の願いのために、  
自ら変え、努力を続けます。

**Janssen**  
PHARMACEUTICAL COMPANIES  
OF *Johnson & Johnson*